

新潟民医連に加盟する法人・事業所の取り組みを紹介します。 2024年3月18日（月）
発行者：宮野 大

能登半島地震

日本薬剤師会の呼びかけで支援

～時間の経過に応じ、支援内容にも大きな変化が～

1月時点では多くあった「災害処方箋」の調剤を、

2月時点では「災害処方箋」は1枚も無く、38か所の避難所回りを実施

下越病院の長井一彦薬剤師と、新潟メディカルプランの滝沢尊子薬剤師
の二人が支援に参加しました。支援の様子をお伝えします

【長井一彦薬剤師(1/20～1/24)】

珠洲市(医療支援の拠点健康増進センターと日赤が立ち上げた救護所)の2か所での**災害処方箋の調剤が主な支援内容**でした。

もともと保険薬局がない地域で、開業医も病院も以前から院内処方でした。そのため急遽、健康増進センターに臨時薬局を立ち上げたようです。

私の支援はわずかな期間でしたが、**断水で普通にトイレが使えない状況は本当に厳しいもの**と感じました。

薬剤師の人数が少なく避難所を回れずDMATや自衛隊の方に後日、薬を届けてもらいました。

○見えてきた課題

ICTの重要性です。日薬、県薬への報告はグーグル、薬剤師間の連絡、情報のやり取りはlineのオープンチャットなどでした。ICTを通して様々な団体と連絡が取れたらもっと効率的に支援できるのでは思いました。

【滝沢尊子薬剤師(2/8～2/8)】

震災から1カ月1週間ほど経過しており、その時点では、輪島での診療が再開されつつある段階で、**災害処方箋は一枚も発行されず**、復興の妨げにならないように、現地の活動を見守りつつ、必要な活動を行いました。

そのため**主な活動が38か所ある避難所を回り**、避難している人数や感染症の有無、換気状況やトイレ、ごみなど公衆衛生の確認、OTCの管理や必要、要望があれば回収したり、**受診や薬などの心配がないか聞いたりアドバイス**をして回りました。

○見えてきた課題

復興のために過度の支援は極力避け、OTCなどは撤退させる方向でしたが、それぞれ避難所を回っていると、自分たちで対応できるため必要ないところも多い印象でしたが、OTCもまだ必要なものがあったり、よくわからないまま回収されてしまっているところもあり、**実際に避難所を回り、話を伺い状況を確認して行うことの重要性**を感じました。



女性用トイレ車



救護所



真横に倒壊したビル